

男女共同参画の視点から考える



多様性の象徴
「レインボーフラッグ」
レインボーフラッグは、性の多様性や、LGBTQなどの性的マイノリティの象徴として幅広く使用されています。

性の多様性ってなんだろう？

「多様な性」について考えたことはありますか？人の性は、「男性」と「女性」のどちらかしかないと考えていませんか。しかし、実際の性は簡単に分けることはできず、ひとりひとりがグラデーションのように多様です。

近年、「LGBTQ」という言葉を見聞きする機会が増えています。LGBTQは、レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシャル(両性愛者)、トランスジェンダー(性自認が出生時に割り当てられた性別とは異なる人)、クエスチョニング(自らの性のあり方が定まっていない人)、ヤクシア(性的マイノリティのすべてを包括する言葉)の頭文字を取った言葉で、多様な性を表す総称の一つとしても使われています。

性の多様性を理解するための3つの要素

- 生物学的性** 生まれたときの身体的特徴などによる性
- 性自認** 自分が認識する自分の性
- 性的指向** 恋愛感情や性的な関心の対象となる性

カミングアウトとアウティング

性的マイノリティが自身の性について誰かに開示することを「カミングアウト」といいます。これは相手のことを信頼していなければできないものです。カミングアウトを受けた際には「話してくれてありがとう」と伝え、誰にどこまで伝えていいのかなどを、本人にしっかり確認しなければいけません。本人の同意なく性のあり方を第三者に暴露することを「アウティング」といいます。

アウティングは人権の侵害であり、場合によっては自死などの命の危険につながることもある危険な行為です。絶対に行ってはけません。



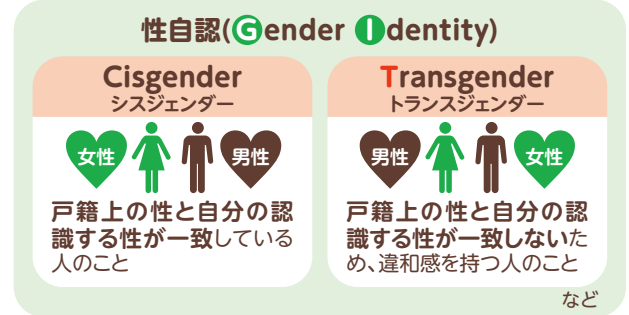
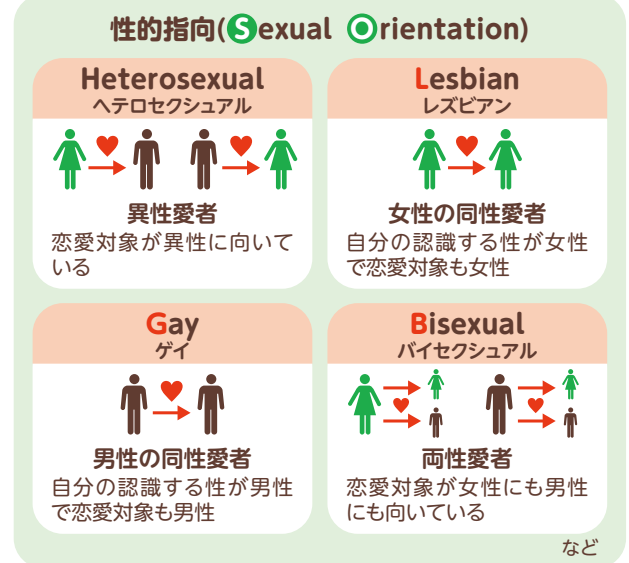
男女共同参画の推進は、性別、年齢、国籍、障害の有無にかかわらず、幅広く多様な個人を認め合う社会の実現にもつながるものです。そして、「男性」と「女性」は、単純に区分できるものではありません。そこで今回は、LGBTQをはじめとする「多様な性」について取り上げ、考えていきます。

SOGI(ソジ)ってなんだろう？

性の多様性を表す言葉として性的指向(Sexual Orientation)と性自認(Gender Identity)の頭文字をとったSOGI(ソジ)があります。

SOGIはLGBTQとどう違うのでしょうか？LGBTQが性的マイノリティの総称の一つであるのに対して、SOGIは誰もが持っている性のあり方を意味しています。

LGBTQと聞くと多くの人は他人事のように感じられるかもしれませんが、SOGIで性のあり方を考えると、自分の性をどう認識しているか、誰を好きになるかということとは人それぞれで違うということを理解できるのではないのでしょうか。そして、みんな違って当たり前のですから、「どこからが普通で、どこからが特別」という境界線も簡単に言い切ることはいえない、ということがわかります。



多様な性のあり方



表現する性とジェンダー

性(性別)については、「生物学的性」、「性自認」、「性的指向」の他にも重要な要素が2つあります。それは、「性表現」と「ジェンダー(社会的・文化的な性)」です。

性表現は、服装、しぐさ、言葉づかいなどにより表現する性のことです。

これらの性表現もひとりひとりの尊重すべき個性です。また、トランスジェンダーの方々の多くが、性表現について困難を抱えています。

男女共同参画では、性別に関して「ジェンダー」あるいは「ジェンダー平等」という考え方を提示してきました。「ジェンダー」とは特定の社会が男性及び女性にふさわしいと考える社会的に構築された役割、態度、行動、属性を指します。

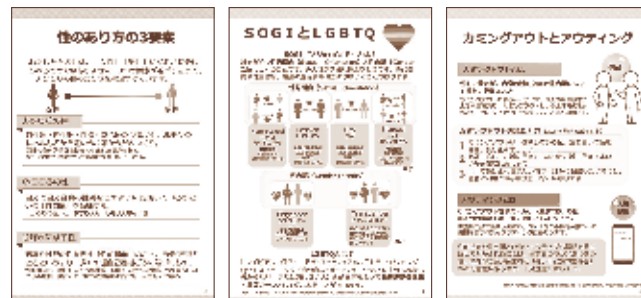
性的マイノリティの人たちが抱える困難と、ジェンダーの視点から見た女性(男性)が抱える困難は、多くの共通点があります。それはどちらも、「性(性別)」について、不自由で柔軟性のない考え方にとらわれることが要因だと言えます。

ジェンダーの視点から見た女性(男性)が抱える困難

- 就職の採用面接で性的な質問を受ける。
- 性別に関係のない業務でも女性(男性)らしさを求められる。
- 男の子は青、女の子はピンクなど合理性のない選択をさせられる。

新しい啓発パネルができました！

「多様な性 知っていますか？」(A2判11枚) わたしたちは、一人ひとり異なる自分らしさを持っています。その一つが「性」であり、性はグラデーションのように多様です。多様な性を知り、誰もが自分らしく生きられる社会をつくるために、一人ひとりができることは何かを、考えるきっかけとしてご利用ください。



With You さいたまでは、市町村や女性団体などを対象に、他にも「セクシュアルハラスメントのない社会へ」「知っていますか？デートDV」など、男女共同参画に関する啓発パネルの貸出しを行っています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

誰もが自分らしく生きられる社会を目指して

私たちの暮らす社会には、伝統的な「男らしさ」「女らしさ」という枠組みの中で、偏見や差別、不合理なルールなどがあり、男性にも女性にも生きづらさが生じています。人の性を「男性」と「女性」に二分し、異性を好きになることのみを前提とした社会は、女性を家庭と子育てに、男性を仕事や公的な領域に固定してきました。

男女共同参画推進センターでは、そのような性別による「らしさ」とらわれずに生きていくことができる社会の実現を目指しています。性別による「らしさ」とらわれないということは、ひとりひとりの多様性を認めるということです。それは、性的マイノリティを含め、幅広く多様な人々を尊重し認め合う社会につながり、生きづらさや困難を少しでも軽減することにつながります。

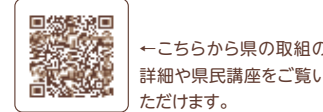
現在策定中の「埼玉男女共同参画基本計画」案では、新たに「多様性の尊重」の視点を盛り込み、性的マイノリティについてはその重要性から、「LGBTQの権利尊重に向けた理解増進の取組及び相談体制の充実」、「LGBTQが安心して生活でき、働きやすい環境づくり」などを盛り込んでいます。

市町村などの「男女共同参画条例」にも、性的指向や性自認の視点を盛り込む事例が増えてきています。

誰もがひとりひとり異なる性のあり方を持っており、性的マイノリティは特別な存在ではありません。お互いの違いを尊重し、誰もが自分らしく生きられる社会の実現に向けて考えてみましょう。



埼玉県ではこんな取組をしています！



1 これまでの取組と実態調査

人権推進課では、LGBTQに関して県民や企業向けの研修、相談案内カードや啓発資料の配布など、啓発活動に取り組んできました。また、当事者の抱える困難等を把握するため、令和2年度に「多様性を尊重する共生社会づくりに関する調査」(LGBTQ実態調査)を実施しました。

■ 調査概要

調査対象：無作為抽出した18歳以上64歳以下の県民
調査方法：郵送配布、郵送・インターネット併用回収
調査期間：令和2年9月11日～10月4日
有効回収数：5,606件(発送数：15,000件)

2 実態調査結果

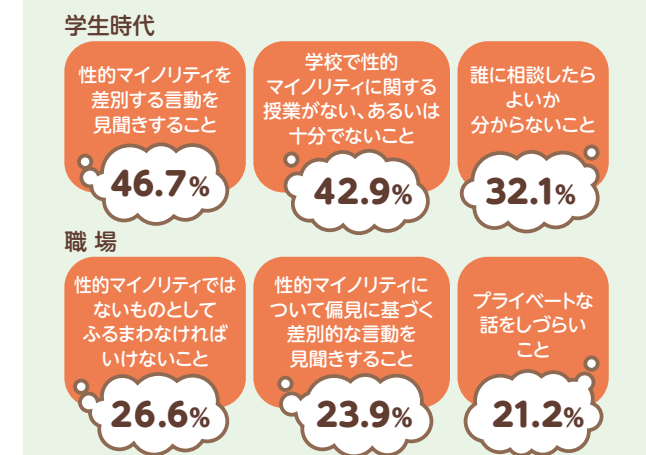
(1) 性的マイノリティってどのくらいいるの？

今回の調査で、性的マイノリティに分類した人数は184人で、その割合は全回答者の3.3%でした。30人学級であれば1人はいても不思議ではなく、誰もが性的マイノリティと接している可能性があると言えます。また、このうちカミングアウトしていない人の割合は34.8%でした。

(2) 性的マイノリティはどんな困難に遭っているの？

性的マイノリティに分類した人に学生時代や職場で性的マイノリティに関して悩んだ経験について質問しました。学生時代は性的マイノリティを差別する言動を見聞きすること(46.7%)、職場では性的マイノリティではないものとしてふるまわなければならないこと(26.6%)と回答した人がそれぞれ最も多くなっています。

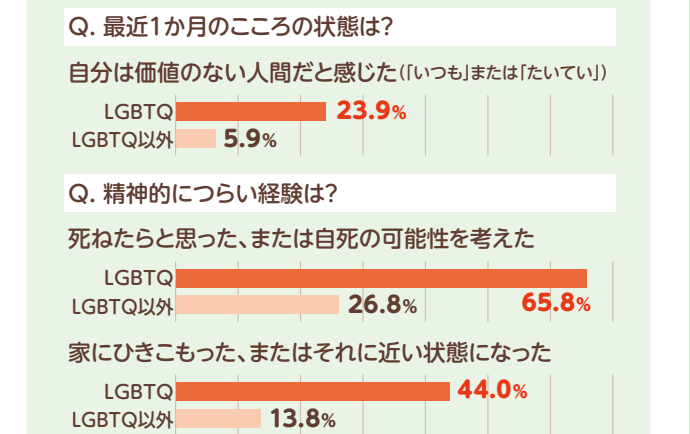
■ 直面する困難の例(複数回答)



(3) 性的マイノリティのこころの状態

最近1か月間のこころの状態等について質問し、性的マイノリティとそれ以外の人を比較してみました。「自分は価値のない人間だと感じたことがある」と回答した人の割合は、性的マイノリティ(23.9%)の方が性的マイノリティ以外(5.9%)より約4倍も多くなっています。

■ 性的マイノリティのこころの状態



性的マイノリティはそれ以外の人と比べて、自己否定感や精神的な困難を抱えていることがわかりました。また、差別や偏見を恐れてカミングアウトできない人も少なくありません。周りの人や社会に、性的マイノリティに関する理解が十分に進んでいないこともあり、性的マイノリティの多くは生きづらさを抱えています。



3 これからの県の取組

人権推進課では現在、県民向けにオンラインでLGBTQ県民講座(令和3年12月24日まで一般公開)を開催しています。12月にはLGBTQ当事者が安心して就労できるよう、オンラインによる企業向け研修を開催予定です。

また、LGBTQ当事者の孤立感等を軽減できるよう、アライ(LGBTQの理解者・支援者)の存在を見える化する事業の一つとして、レインボーカラーを活用した「アライ コパトン&さいたまっし」を作成し、県のホームページで公開しています。

人権推進課では今後、引き続き啓発活動を実施していく他、LGBTQに関する相談体制の充実を図っていきます。また、LGBTQ当事者が安心して生活でき、働ける環境づくりにも力を入れていきます。

お互いの人権を尊重し、誰もが自分らしく生き生きと活躍できる社会の実現に向けてこれからも取り組んでまいります。

